

# 平成28年度 指定管理業務評価結果書

## 1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	中島病院旧本館（呼称：城西浪漫館）
(2) 指定管理者	所在地 岡山市北区表町一丁目1-40 名称 ㈱内外総合通信社 代表者 代表取締役 延原 誠
(3) 公の施設の所管部署	都市建設部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	平成27年4月1日 ～ 平成32年3月31日
(5) 評価対象期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

## 2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	平成28年度実績	対27年度	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績
来館者数	12,633人	69人	12,564人	2,615人	来館者数 9,949人
（男性 6,111人）		-273人	（男性 6,384人）	1,522人	（男性 4,862人）
（女性 6,522人）		342人	（女性 6,180人）	1,093人	（女性 5,087人）
喫茶利用者数	4,664人	-608人	喫茶利用者数 5,272人	781人	喫茶利用者数 4,491人
(2) 事業の内容	開館業務、貸館業務、喫茶室運営業務、自主事業【お花見ランチ、生け花教室、「鶴葵」新バージョン登場、今村信吾～弾き語りLIVE、「津山城天守閣を眺めよう」展、宇田川榕菴没後170年記念講演会、宇田川榕菴御命日城西まち歩き、鈴木禎三展、津山のあやかし物語と歌川国芳の世界展、田町奴行列展、「榕菴珈琲」試飲会、津山城西まるごとフェアキッズフリマ、徳守祭だんじり衣装展、宵のまち歩き、コーヒークリームパン販売、児島とのコラボ商品開発、城西まるごと博物館フェア小学生絵画展、ライトアップ、クリスマスランチ、神農展展示と甘酒無料配布、前田孝造干支の色紙展、津山城下町謎めぐり参加、津山一店逸品、まちなか模擬オークション参加、コカリナコンサート、障がい者自立支援、など】				

## 3 収支の状況

(1) 収入	平成28年度実績	対27年度	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績
(指定管理者の収入)	総額 7,694千円	-414千円	総額 8,108千円	-27千円	総額 8,135千円
内訳	内訳		内訳		内訳
指定管理料	2,500千円	千円	2,500千円	31千円	2,469千円
利用料金	6千円	-515千円	521千円	477千円	44千円
喫茶売上	3,405千円	-300千円	3,705千円	619千円	3,086千円
自主事業（参加者負担金）	144千円	-19千円	163千円	-98千円	261千円
雑収入（物販ほか）	131千円	9千円	122千円	-839千円	961千円
自社負担金	1,507千円	410千円	1,097千円	-217千円	1,314千円
(2) 支出	平成28年度実績	対27年度	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績
(指定管理者の支出)	総額 7,694千円	-414千円	総額 8,108千円	-27千円	総額 8,135千円
内訳	内訳		内訳		内訳
人件費	4,287千円	-251千円	4,538千円	-642千円	5,180千円
消耗費	42千円	-5千円	47千円	-24千円	71千円
光熱水費	414千円	千円	414千円	-25千円	439千円
通信費	85千円	3千円	82千円	32千円	50千円
警備委託	91千円	-1千円	92千円	-9千円	101千円
備品費	50千円	-5千円	55千円	-110千円	165千円
研修費	371千円	92千円	279千円	93千円	186千円
会費等	22千円	-19千円	41千円	3千円	38千円
喫茶仕入（4月～3月）	1,989千円	-102千円	2,091千円	466千円	1,625千円
自主事業費	50千円	-20千円	70千円	-210千円	280千円
その他（租税公課等）	292千円	-107千円	399千円	千円	千円

## 4 総合評価結果

(1) アンケート調査等 婚活イベント参加者にアンケート調査を実施
(2) 指定管理者の自己評価 単年度の黒字化を目指したが、前年度獲得した大口の貸室利用を継続して獲得することが出来ず、達成できなかった。自主事業では、地域の歴史と文化に重点を置いた展示企画を実施した。特に地域の人々にスポットを当て地域情報発信拠点施設として積極的に取り組んだ。その結果、津山洋学資料館などとの連携回数も増え展示の充実や講演会の実施にも繋がり、市民参加型イベントを増やすことができた。年間入館者数は前年比増となり、当館の開発したコーヒーの土産・ギフト商品を市内外のイベント等で積極的にPRした結果、観光客等への知名度がアップし、津山市のふるさと納税返礼品としても貢献できた。併設喫茶は消費税後も価格を据え置き利用してもらうことを最優先としているため、新メニュー開発等で収益をあげていきたい。また、経費削減も積極的に取り組み、次年度は本社負担金（赤字）を圧縮し単年黒字を実現したい。
(3) 市の評価 毎月様々な自主事業を実施し、メディアにも度々取り上げられるなどして施設の知名度向上に貢献している。開館日は毎日ホームページを更新するなど情報発信にも積極的に取り組んでいる。城西まるごと博物館フェアなどの地域イベントにも積極的に関与し、施設の利用促進にも効果もあげている。地域住民やNPO法人、洋学資料館や津山市が運営している津山珈琲倶楽部など、多方面と連携した事業も実施されており、今後も継続されたい。 利用者からの意見収集については、アンケート調査やホームページの効果的な活用にも努めるなど工夫し、事業推進に反映させてもらいたい。来館者数の堅調な伸びは高く評価しているが、喫茶と貸館の利用は減少しており、これが収益悪化の要因となっている。今後は自己評価においても目標とされている単年度黒字化を見据え、経営の一層の効率化を図る等、新たな試みにも期待する。 なお、平成29年5月30日に開催された審査委員会においても、業務内容に関しておおむね良好であるとの審査結果であった。